《参加者向けガイド》

「ひょうご青少年社会貢献活動認定制度」課題と取り組み方について

■ 課題

(1) ローバースカウトおよび一般大学生年代は、参加期間中(もしくはそれ以前)にボーイスカウト講習会を修了する。修了済みであれば、地区のラウンドテーブルや、県・地区開催の研修会(定型外訓練)に参加する。自己能力を高める研鑽として、資格の取得や、ボーイスカウト以外の研修に参加することも良い。
(2) ベンチャースカウトおよび一般高校生年代は、ジュニアリーダーとしての心構えの指導を受け、ジュニアリーダーのプロジェクトバッジ(一般の場合はそれに相当するプロジェクト)の計画書を指導者に提出する。計画書には指導を受けた心構えの内容と抱負をまとめたものを加える。プロジェクトを展開した後は、報告書を提出し、指導者から認定を受ける(ベンチャースカウトはプロジェクトバッジを取得する)。
(3) 通算 3 泊以上のキャンプを体験する(他隊のキャンプへの参加、研修所での泊数も算入可能)。
(4) 24 日以上の活動実績かつ計画の 80%以上を達成する。

■ 取り組み方

この事業の名称は、「青少年教育活動（ボーイスカウト）のリーダーを務め地域社会に貢献する」としており、
・ボーイスカウトの手法により
・少年たちに野外での体験活動を提供することによって、良き社会人の育成に携わり
・自らも成長する
ことをねらいとするものです。そのため、

まず、ボーイスカウトの手法を学びます

ローバースカウトおよび一般大学生年代は**ボーイスカウト講習会**で、指導方法の基礎を研修します。すでに修了している場合は、ラウンドテーブルや、県・地区開催の研修会に参加しブラッシュアップしましょう。

ベンチャースカウトおよび一般高校生年代は、**ジュニアリーダーとしての心構えについて指導を受け**、スカウトの先輩(兄貴分)としてスカウトたちを導く方法を学びます。

実際に、野外での体験活動を少年たちに提供します

概ね 6～8 ヶ月の期間、隊指導者やジュニアリーダーとして、**隊活動の企画計画・実施展開・評価に携わり**ます。隊の集会(野外での体験活動)に参加することはもちろん、プログラム会議(指導者会議)、団会議等へ参加して、**プログラムサイクルを何度か経験**します。全ての活動を含めると 24 日はすぐに達成できるはずです。

これらの活動により、少年たちを責任ある市民に育てることが、ボーイスカウトの目指す**社会貢献**です。

その中で自らも成長していきます

少年たちを育てることを通して、**自らの能力も向上**します。

特に、ボーイスカウトで活動した証として、**通算 3 泊以上のキャンプを体験**してください。ボーイスカウトのキャンプは、さまざまな状態をもつ**自然**の中に身を置き、**創意工夫**で対処することを学びます。少年たちや仲間の指導者との**人間関係**とあいまって、自己の成長に大きく貢献します。

取り組みの手順

担当	ローバースカウトおよび一般大学生年代	ベンチャースカウトおよび一般高校生年代
本人→団	認定制度参加を団委員長(他)に申し出る	
団→本人	課題の説明を受ける	
団→本人	事業計画書・報告書、自己評価シートを受け取る	
指導者→本人		ジュニアリーダーとしての心構えの指導を受ける
本人→指導者		ジュニアリーダーのプロジェクトバッジの計画書を提出(ジュニアリーダーとしての心構えと取り組みへの抱負をまとめ計画書に加える)
本人	事業計画書・報告書の**計画部分**記入	
本人	自己評価シートの**事前部分**記入	
団→県連	県連事務局に参加名簿を添えて提出	
県連→県	申請	
本人	ボーイスカウト講習会(その他の研修)の参加	
本人	計画書に従い隊指導者としてプログラムサイクルを経験(6〜8 ヶ月) 野営・舎営の経験(3 泊以上)	
本人→指導者		プロジェクトの報告書を提出
指導者→本人		プロジェクトの認定(プロジェクトバッジの授与)
本人	事業計画書・報告書の**報告部分**記入	
本人	自己評価シートの**事後部分**記入	
本人→団	面談を受ける	
団	団体としての評価を記入（評価が低いと認定されません）	
団→県連	事業計画書・報告書、自己評価シートを県連盟事務局に提出	
県連→県	申請	
県→･･･→本人	認定（ただし団体評価が一定基準に満たない場合は認定されません）	